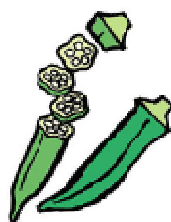


## オクラ



栽培歴

● は種 ■ 定植 ■ 収穫

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地					●				■	■		

### 栽培ポイント

- (1)暑さに強く、吸肥性にも富む高温性作物です。肥よくて排水がよく、日当たりの良い畑が適しています。
- (2)10℃以下の低温では生育が劣るため適期まきを実施します。
- (3)連作を嫌うので、前年度作付けした畑には作らないようにします。
- (4)さや果の毛じはかゆみや皮膚のかぶれをおこす場合があるので、収穫管理作業は手袋やカッパなど服装に工夫します。

### 品種・は種

#### ■ 品種

スターライト、ガリバー

#### ■ は種期

5月中旬～下旬

#### ■ 芽出し

種子は皮がかたく水分を吸収する力が弱いので、一昼夜水に浸してからは種します。

#### ■ は種

オクラの根は直根性で細根が少なく、移植性に欠けるため、直まきします。1穴に4～5粒は種し覆土します。乾燥している場合は、かん水しましょう。

### は種準備

#### ■ 土づくり

定植20日前に土壌改良資材を施用し、土と良く混ぜておきます。

#### ■ 施肥

生育期間が長いので、緩効性肥料を主体に施肥し草勢の維持を図ります。

#### ■ マルチ

降雨後等土壌に水分がある時にマルチを行い、発芽の斉一と生育促進を図ります。

穴あきの黒マルチを使用しましょう。

### 栽植様式

#### ■ 栽植密度

マルチ栽培とし、条間45cm、株間30cmの2条植えとします。通路は1m以上あった方が、収穫作業がしやすくなります。

### 栽植後の管理

#### ■ 間引き

本葉4～5枚のころに、茎葉の奇形、生育の遅れ、病害虫におかされたものを間引き、1穴当たりの株立て数は3本とします。

#### ■ 追肥

収穫が始まったら、草勢を見ながら追肥します。1回の追肥量は10a当たり窒素成分で3kgを目安に、通路に施用します。

- 摘葉

葉が茂りすぎると光線の透過が劣り、着果が悪くなるので、収穫したさや果より下の葉はかき取ります。ただし、草勢が落ちている場合は、収穫したさや果より下に葉を2～3枚残して摘葉します。

- かん水

極端に乾燥する場合は、通路にかん水します。

- 側枝(わき芽)の発生

主枝の下部から側枝が発生してくるが、ふつうは放任します。

- 台風対策

倒伏を防止し、もし倒伏した場合は、速やかに根元から起こします。

#### 主な病害虫と防除対策

- アブラムシ類

本葉3枚くらいの頃からつきやすくなります。葉裏に薬剤が十分かかるよう、薬剤散布します。

- カメムシ類

さや果が吸汁されると、その部分から曲がってしまい、品質が著しく低下します。捕殺するとともに、薬剤を散布します。

#### 生理障害

- 落花(果)

日照不足や低温等が影響し梅雨期等、天候が不順な時に発生します。

- いぼ果

過繁茂、草勢低下、低温、少日照、乾燥の条件で発生します。

- 曲がり果

さやの中の子実の発育不良、ホルモンのアンバランス、カメムシの吸汁により発生します。

#### 収穫

開花後4～5日で、長さ7～10cmものをはさみで収穫します。最盛期になると、朝晩2回収穫できます。